



ふれあいの丘 天文館だより



★初心者天文講座『春の星座と惑星(金星・火星・土星)をみよう』参加者募集!

◆日時 4月14日(土) 午後6時30分～8時15分

◆場所 ふれあいの丘天文館

◆内容 春の大三角、春の大曲線を目印に春を代表する星座のを見つけ方を解説。また、65cm望遠鏡などを用いて惑星(金星・火星・土星)の観望を行います。(雨天曇天時は説明のみ実施)

◆対象 小学4年生以上(中学生以下は保護者同伴)

◆定員 30名

◆参加費 小中学生1名100円、大人1名300円(入館料として)

◆申込方法 4月7日(土)から電話または直接ふれあいの丘天文館まで申し込み。

◆受付時間 午前9時～午後9時

★今月の天文現象

●環(かん)の美しさが見どころの土星

夜空には春の星座が見え始めてきました。太陽系の中で、環を持つ惑星として有名なのが土星です。その美しさから、「太陽系の宝石」ともよばれています。今年はおとめ座の1等星「スピカ」と並んで明るく輝いています。

土星は、太陽系のなかで木星の次に大きい惑星

で、地球の約9倍、質量(重さ)は地球の約95倍もあります。土星本体は、軽い水素ガスでできていて、もしも土星がはいるほどのプールがあったら、ぶかぶか浮いてしまうそうです。

土星は、約27度傾きながら、太陽の周りをおよそ30年かけて一周しています。このため地球から見ると土星のトレードマークの環の傾きを毎年違った姿で見ることができます。この環は、ごく小さい氷や岩でできていて、厚さは数十mから数百mです。このため、2009年にははるか遠くの地球から見ると細い線に見え、あたたかも大きなおだんごに串がささった姿で見えました。現在は、2017年の傾き最大に向け徐々に大きくなり、皆さんがイメージする土星を見ることができます。



土星を天体望遠鏡を使って見るには40倍程度の倍率があれば環を確認できます。65cmの望遠鏡を使えば土星のしまもようや環、また濃い大気におおわれた「タイタン」という土星の衛星もはっきりと見え、土星の美しい姿を楽しむことができます。

どうぞ、天文館の望遠鏡で「太陽系の宝石：土星」をご観望ください。

■申し込み・問い合わせ

ふれあいの丘天文館 ☎(28)3254

🌐 <http://www.fureai-tenmonkan.jp/>



ふれあいの丘 自然観察館だより



いよいよ春が巡ってきました。厳しかった冬を耐えぬいた昆虫たちは、気温の上昇とともに元気を取り戻し活動をはじめました。

自然観察館でも、躍動の春にふさわしい「世界のチョウ・日本のチョウ」のミニ企画展を実施しています。ぜひご覧ください。

●「世界のチョウ・日本のチョウ」

世界のチョウは南極をのぞく、ヒマラヤの高山から熱帯地帯までほとんどの地域に生息し、約1万7800種ほどが知られています。

特に中南米・東南アジアなどは、美しく珍しいチョウが多く、チョウの宝庫として有名です。

また、日本はユーラシア大陸の東端部に位置することもあり、約230種以上のチョウが生息していますが、ギフチョウなど日本の固有種も生息しています。

今回は多くのチョウの中から美しいチョウや珍しいチョウを選んで展示しました。

☆「春の女神」ギフチョウ……

残雪残る早春、サクラの開花の頃に人里近い雑木林から飛び出す小型の美しいチョウで、「春の



ギフチョウ

女神」・「早春の舞姫」と呼ばれ、多くの人に親しまれてきたチョウです。アゲハチョウの仲間、秋田県以南の本州に生息しますが、近年里山の荒廃や開発によって数が減少し、絶滅危惧種に指定され保護されています。

☆話題となった「シボリアゲハ」……



シボリアゲハ 昨年8月、日本の探検隊が78年ぶりに発見した幻のチョウ「ブータンシボリアゲハ」の仲間です。ヒマラヤ山麓に生息していますが、数も少なく詳しい生態はわかっていません。ギフチョウに似ています。

●新展示品「昆虫の姿を完成させよう！」

55のピースでヘラクレスオオクワガタなどの姿を完成させる大型ジクソーパズルです。

制限時間は20分ですが、ベスト10に入賞すると記録がコンピュータに表示されます。現在までの新記録は驚異的な4分台です。新記録をめざして親子で挑戦してください。



新展示品

■問い合わせ

ふれあいの丘自然観察館 ☎(28)3131

🌐 <http://www.fureaino-oka.com/shizen/>